

# 1. 調査報告概要表

作成日 2008年5月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1590300156
法人名	株式会社 だんらん
事業所名	グループホームだんらん
所在地 (電話番号)	新潟県 上越市 頸城区 北方 125番地8 (電話) 025 - 530 - 3657
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年5月8日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	9.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 約20,000 円
敷金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人知命堂病院・山田クリニック・あすかクリニック高木医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上越市内でも自然豊かな頸城区の中心に位置し、竹林に囲まれたデイサービス・有料老人ホームを併設したグループホームです。ホーム内には日々の生活を写した写真がいたるところに掲示されており、利用者が常に思い出に触れることができます。訪れた人が利用者の楽しそうな日々の生活を感じ取ることができます。事業所開設から5年間、職員の離職がないことは、職員を大切に育て、職員が協力し合い利用者を支える事業所の取組みの結果だと思われます。地域の中でも早くに開設された事業所ということもあり、他事業所からの研修や見学の受け入れを積極的に行われています。今後、地域事業所交流の中心的役割を果たされることを期待します。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の際課題となった、1. 趣味の道具を利用者の目に付く所に置き自由に使えるようにする2. 鍵をかけないケア3. 金銭管理に関しては、評価後に話し合いを行い、迅速に改善への取り組みが行われました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は項目一つひとつについて日々のケアを振り返りながら、全職員で話し合い作成されました。評価を行うことで職員の意識合わせやケアサービスの質向上に役立てられました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の案内状は全利用者家族、職員に配られ、議題や要望などを伺い有意義な会議になるように工夫がされています。また、参加者メンバーの要望により開催曜日が参加しやすいよう変更され、利用者や職員も参加しています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームへの意見や要望は家族会(年4回開催)から文章で届けられ、表出された要望等については職員会議で話し合い運営に活かされています。また、回答や改善策は文書にして全利用者家族に報告されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事には地域の老人会やボランティアの訪問があり、保育園の行事には入居者が招待されています。また、住民の訪問が日常的にあるなど、地域とのお付き合いが頻繁に行われています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者のペースで自立した生活」、「地域との交流」等を理念に掲げ、地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、理解に努められています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議や朝夕の引継ぎ時、日々のカンファレンス時に提供したサービスを振り返り、理念に基づくものであったかを話し合い、入居者一人ひとりに関わる際の基本的な姿勢が確認されています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議を通じて家族や地域の人々に、事業所が大切にしている理念や、理念に基づき事業所が取組んでいることが伝えられています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事には地域の老人会やボランティアの訪問があり、保育園の行事には入居者が招待されています。また、住民の訪問が日常的にあるなど、地域との付き合いが頻繁に行われています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目一つひとつについて日々のケアを振り返りながら、全職員で話し合い作成されました。評価を行うことで職員の意識合わせやケアサービスの質向上に役立てられました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の案内状は全利用者家族、職員に配られ、議題や要望などを伺い有意義な会議になるように工夫がされています。また、参加者メンバーの要望により開催曜日が参加しやすいよう変更され、利用者や職員も参加しています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議(包括支援センター、福祉関係、医師、保健師、行政)に参加し情報交換が行われています。分からない事があれば電話や直接市の窓口へ行き相談し、担当者とは何時でも気軽に相談が出来る関係が構築されています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を開催し、虐待防止に関する知識と意識を高める取組みが行われています。また、家族会・運営推進会議において意見交換も行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者家族には毎月1回は来所をお願いし、来所の折に日頃の様子や健康状態などが報告されています。また金銭に関する確認、介護計画なども説明しサインを頂いています。成年後見制度を活用し入居者が安心できる体制作りに取り組まれました。ホームページでも積極的に情報提供がされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームへの意見や要望は家族会(年4回開催)から文章で届けられ、表出された要望等については職員会議で話し合い運営に活かされています。また、回答や改善策は文書にして全利用者家族に報告されています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談苦情窓口、家族会、運営推進会議でよせられた意見は、職員会議において共有と改善策の検討がされています。また、結果についても家族会、運営推進会議にて報告がされています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以降約5年職員の離職はなく、馴染みの職員が継続的に関る体制作りが積極的に行われています。職員が入職した時は数日間マンツウマントレーニングを行い入居者への支障がないよう配慮されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルが整備され、現場の実態や最新の情報に即すよう定期的な見直しや追加が行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会は報道された同業者の事故や職員からの要望など必要と思われるものを題材に毎月行われています。外部研修は交代で参加し職員会議で報告し共有が図られています。職員の資格取得が奨励されています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設が早いこともあり新設のホームからの研修や見学の受入れやスーパーバイザー的な役割をされています。		今後も継続的に地域の同業者とのネットワーク作りの中心的存在として活躍されることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員に対してアンケートや面談を行い、職員一人ひとりの状況が把握されています。その結果、開設以降5年間、離職者が一人もでないという成果が得られています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学してもらっています。沢山のグループホームを見学することを勧め、利用するときには必ず、『ここでの生活でよいのであれば』と話すなど本人、家族が納得してから利用開始することを基本としています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から戦争や体験話、苦労話を聞いたり料理の仕方や工夫など日常的に教えてもらっています。入居者の考えや話しはとても役に立ち、学ぶことが多く、職員は教えてもらったり助けてもらった時には感謝の言葉を伝えていきます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問時に家族に対し利用者の状態を伝えるとともに、家族の思いや意向、状況を伺い、お互いに情報を共有することで、家族と共に本人をささえていく関係の構築がされています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1度、利用者家族と全職員が「私が さんだったら」というアンケートに答え、全職員の考えを発表し話し合いが行われるなど、入居者の思いや意向を把握し、近づくよう工夫がされています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問の際、得た情報を情報収集シートに記入し、職員間で話し合いを行い共有がされています。また、日常のコミュニケーションから得た情報は生活記録に記入し、情報が蓄積されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族から意向や要望を聞き、入居者がその人らしく生き活きと生活できるように全員で話し合い本人本位の介護計画が作成されています。作成された介護計画は家族に説明し確認印を頂いています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的に見直しが行われています。本人の状況が変わったり意向が変わる場合には見直し期間前であっても見直しを行い修正又は新たな介護計画が作成されています。		介護計画の遂行状況や本人の状態確認、職員の意識合わせのために毎月、見直すことを望みます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	この4月から共同型デイサービス、短期入所が利用できるように受入れを始め、近隣の高齢者の要望に応じています。また家族に代わり買い物など外出などに付き添っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっています。協力医療機関の医師を希望する場合は紹介状を持参し家族が医師と相談し変更が行われています。医師とは看護師を通し連携が密に行われています。医師の携帯電話番号が知らされており、何時でも相談が来き、必要に応じ住診も行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関する指針、ターミナルケアの指針があり家族に説明し、同意を得ています。入居者家族の希望に沿いながら看取りの支援が実践されています。重度や終末期の入居者に対し職員は方針を共有し穏やかな気持ちで最期を迎えられるよう出来る限りの支援が行われています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄のトラブル等が認知症自立度レベルによる入所者関係のダメージを避けるため、声かけや対応にはプロの接遇に徹する努力がされています。職員は個人情報の保護を理解し守秘義務に徹する取り組みがされています。		個人情報の取り扱いは契約書等に記載されてはいるが利用目的などに関しては明確にされていないので見直しの機会があれば説明、同意等、書類の整備をされることをお勧めします。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに一日の流れや一ヶ月の予定は決めているが、その日の様子や入居者の希望や体調などで柔軟に変更されています。入居者から『～を見たい、行きたい』などの声をしっかりと受け止めては一人ひとりの希望に沿う支援が心がけられています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、片付けを入居者の力量に合わせながらお願いし一緒に行っています。食事中は料理の出来栄を褒めあい、うなづきながらの食事風景であり和やかな雰囲気に包まれていました。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握と、落ち着きがなくなる、動き出すなどの行動からのサインにより、トイレ誘導することで、気持ちよく排泄できるよう支援がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせてながら入浴支援を行っています。入浴を嫌がる入居者に対しては、無理強いをせず関り方を工夫しながら入浴を気分良く入ってもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が何を得意としているのか、何が出来るのかを把握しており生き甲斐につながるように場面作りの支援が行われています。『母がお勝手に立つなんて思っても見なかった』と昔のように生活しているのを見た家族から喜ばれたこともあると伺いました。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前には竹や林に囲まれた庭があり、天気が良ければ日常的に外で過ごしています。近くには公園や池があり『行きたい、鯉を見たい』と希望があれば出掛けています。年々機能低下で車椅子の入居者も増えてきたがレベルに関係なく以前と変わらない支援が実践されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会、事例検討により職員の身体拘束に対する理解と意識を高めるとともに、判断に迷うことがある時に相談しやすい職場環境づくりへの配慮がされています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や全てに鍵を掛けない支援が実践されています。鍵を掛けることで入居者に弊害を及ぼすことを職員は認識しています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月の職員会議において、事故報告・ヒアリハットの報告が行われ、情報の共有と再発防止策の検討が行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	他施設での事例をもとに、学習会が頻繁に行われています。また、看護師による24時間の対応体制を整え、迅速な対応と同時にOJTとして職員の指導が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や住民の協力を得ながら防災訓練が行われています。また、避難訓練、消火器の扱い方、通報の仕方なども同時に行われています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理者が中心となり入居者の希望や旬の食材を使った料理などを組み入れながら作られています。時々栄養士が訪問し入居者と一緒に食事をし、アドバイスを受けて栄養士を囲み食に関する勉強会も行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂からは畑や林が眺められます。一段上がったところには畳のスペースがありそれを囲むように回廊があります。部分的に居間や玄関から見えない場所もあり入居者はそれぞれの場所で気に入った仲間と過ごすことが出来ます。壁には入居者のスナップ写真が沢山貼ってあり、写真と同じ笑顔で入居者が職員とゲームに興じています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁には家族の写真や自身で作った作品が飾られています。馴染みの愛用品や使い慣れたタンスなど家具が持ち込まれて本人が自室と感じ安心できる場所作りに努められています。		